

社会人のための情報システム誌  
— 経営近代化のシステム研究 —

# Computer Report

# 8

2015 No.731

## 3 はじめの言葉

## 4 思情報共有時代の

### 裏と表の情報解釈論

田原文夫

「スワッ、中国バブルの崩壊か」を思わせる株式市場の大暴落があった。急激な市場株価下落に対抗するため、中国企業には自社株の売買停止権限があるということで、今回の暴落を受けて、市場の半数企業がこれを使い、暴落を食い止めたという。自由経済の常識からすると、実に不可解な株式市場制度である。元より妖しさと違和感のある中国市場だがその思いを一層募らせた。バブル崩壊のトドメにサブプライムローン（限りなく不良債権）の証券商品化があった。中国主導で発足準備が進められている AIIB も最終的には無理な貸付融資が重ねられた上で不良債権の証券商品化へと通じるのではないかという懸念の声もある。中国国内のシャドウバンキング（影の金融）の存在がそうした懸念を裏打ちしているかのようだ。

## 10 情報社会を考える その59

### 情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

#### トップの実刑免れない東芝事件

ホリエモンこと堀井貴文元ライブドア社長が、証券取引法違反で懲役2年6ヶ月の実刑判決を受け、服役したのは衆知の通り。要するに、彼が経営していた企業の有価証券報告書への虚偽記載が問われたものだった。言うまでもなく、虚偽記載によって多くの株主が株式取引で損害を被ったとの罪科が問われたわけだが、誤解を恐れず言うならば、筆者の印象では、当時の同社グループの取引での直接的な利益獲得ぶりを株主が細かく見ていたかどうかは疑問だ。建前の有価証券報告書の虚偽記載が厳しく問われ、彼は実刑服役した。

## 12 日本再生／世界競争力回復のカギ

### 何故 M-BIM構築が必要か その54

水田 浩

#### オープンガバメント OG 20 工業化社会をデジタル化する

1990年代に紙によるワークフローをデジタルにして、メインフレームと端末を使って事務系、技術系で個別に行われるようになり、1995年代にはインターネットが世界中で使えるようになってきた。そして、個別に開発されたシステムをより早く、より安く、より良くつかうために製品やシステムのライフサイクル全体の統合化を模索するようになっていた。そして、産業別、国別のシステムとデータを世界共通にしてより生産性の高いビジネスをするために、世界共通の情報基盤を作らなければならないという認識が世界中で起こっていた。そこで、CALSの一つの製品、システム、サービスを全ライフサイクルで、「情報は一度つくって、幾度も使う」という運動は世界規模で受け入れられた。一つの CALS という概念（言葉）で 1995 年から 2005 年に掛けて世界中が一つになって運動

を起こすようになった。

## 19 連載 アーキテクチャ論 (52)

### オープンシステム ボルチモア会議に参加して

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

エンタープライズアーキテクチャについての国際的な標準化団体であるオープングループ (TOG) のボルチモア会議に参加した[1]。今回の参加は、ソフトウェア高信頼化センターによる 2015 年度ソフトウェア工学分野の先導的研究支援事業の公募[2,3]で採択された筆者による「保証ケース作成支援方式の研究」の一環で参加した。そこで、本稿では、この会議のオープニングセッションの概要と、保証ケース作成支援方式についての筆者による Real Time and Embedded Systems Forum (RTES) での発表について紹介する。まず RISE について簡単に説明してから、ボルチモア会議の様相について説明する。

## 28 連載 日本再生と人材育成

### 人口減少／少子高齢化時代への挑戦 その7 Dr.ベスト

#### 「情報と人材」をテーマにマルチ人間的に生きた

#### あるサラリーマンの半生

マルチ人間、スーパー人間と呼ばれてもいいほど、高度成長時代からバブル崩壊、そして今日に至るまで4回の定年退職(1回目:企業の早期退職制度に基づく退職(52才)、2回目:同企業の関連会社における定年退職(60才)、3回目:某大学における定年退職(65才)、4回目:別の大学における定年退職(70才))を経験しながらも「情報と人材」をテーマに働き続けてきた男がいる。その男の生き方は人口減少／少子高齢化時代への挑戦に何らかのヒントを与えることができるのではないかと思われる。その半生を「履歴書」的に紹介させていただきたい(編集部)。

## 35 IT新時代とパラダイム・シフト

### 第69回 遠隔操作による

#### 自動車ハッキング対策が欧米で本格始動

根本忠明

FCA(旧クライスラー)は、140万台のリコールをこの7月に発表した。遠隔操作による自動車のハッキング実験によって、危険性が明らかになったからである。また、今年3月には、カリフォルニア州ではコネクテッドカーへの集団訴訟が起きている。これらの事件は、IoT(モノのインターネット)時代の主役として期待されてきたコネクテッドカーの開発が、大きな転機を迎えたことを意味している。今回は、これらの事件の経緯について、紹介することにしたい。

## 37 続インテリジェンスへのいざない 67

### 信頼／安心／富の確保 情報開示から

今井 武

拙速な安保法案の成立をすすめる安倍政権。不十分な情報開示の典型例である。結果は、国民からの疑惑を招き、信頼を失う。如実に、世論調査の支持率低下となって現れている。

## 40 連載 四字熟語カトレーニング

すぎやまチヒロ

## セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における  
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで  
株式会社 日本経営科学研究所  
ComputerReport編集部

[cr-info@jmsi.co.jp](mailto:cr-info@jmsi.co.jp)

# CR 選書のご案内

**CR選書**

**改訂版**  
**データ・ウェアハウス**

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300)  
A5版 289頁

石井 義興 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの構造と	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネステッド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付 録

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**実践データ・ウェアハウス**  
**OLAP**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)  
A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構造
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付 録

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

**消費者行動論**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)  
A4版 181頁

田原文夫 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

aism 研究活動報告  
**インターネットセキュリティの**  
**落とし穴**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)  
A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修  
aism情報セキュリティ・マシントリプル研究所 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除記
第二章 aism情報セキュリティマシントリプル研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 匿名化された電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネット運用のための情報オーナーの課題
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最近のインターネット防衛戦線心得
第五章 aismの2004年度の事業計画	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報セキュリティ対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2005年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

エンタープライズ情報システム設計の基本書！  
**トップ主導の**  
**情報システム革新**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)  
A4版 271頁

高田 顯重 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**計量モデルの構造と解法**  
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)  
A4版 213頁

安田 聖 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分解方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

**『いざ！というときの(得)広報』**  
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300)  
A5版 228頁

加藤 洋一 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売れない企業体質
■ ニュースリリースは東方向運賃	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**ザ・ワールドリンク**  
がんばれ、国際グローバルサーバー—  
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300)  
A5版 268頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 発端	第十一章 日本開発手法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米商チーム崩壊の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たな仲間
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米商専務所長と新たな組み
第五章 FJO、IBM競争	第十五章 開発フル稼働とバリエーション
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番後日誌
第八章 米商チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働中の一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米商チーム、異なる三人組	第二十章 稼働中の二 安眠薬と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)